

岩手県

定数：3名

立候補者数：4名



氏名 小倉 隆輔
氏名ふりがな おぐら りゅうすけ
都道府県士会 岩手県
年齢 42
勤務先名称 久慈恵愛病院

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2022年 久慈支部 副支部長
2023年 久慈支部 支部長
2024年～現在 組織成長戦略検討委員、ウィメンズ・メンズヘルス支援係員
2025年～現在 久慈支部 副支部長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

「生涯学習制度をシンプルに。会員を置き去りにしない協会運営を」

この度、代議員に立候補いたしました小倉隆輔と申します。10年前に帰郷し、リハ科を立ち上げ、現在は医療・介護・予防の各分野に携わる一理学療法士です。これまで県士会では、支部運営や組織成長戦略検討委員などの活動をしてまいりました。

協会の価値をさらに高めていくためには、現行の生涯学習制度を、より会員の現状に即したものと進化させる必要があると考えております。専門性を担保する制度は重要ですが、過度に複雑化した仕組みは研鑽の障壁となり、制度に適應できないだけで「努力不足」と受け取られかねない風潮は、会員の心が協会から離れる要因ともなっています。また、制度運用に疲弊する士会スタッフの姿も、看過できるものではありません。育児や人員不足、地方在住などで、制度に十分対応できない会員がいる現状は、制度を見直す重要なサインと感じております。

私は代議員として以下の3点を提言いたします。

1. 制度をシンプルにし、学びに伴う労力を、より対象者に向けられる仕組みの構築
2. 誠実に職務を全うしている会員が、無理なく所属し続けられる協会運営
3. 現場の声を反映した制度構築に責任を持つ人物への、理事選挙での投票

多様な会員を包摂し職能を守ることで、国民へより良い理学療法を提供すべく、代議員として責任ある発言をいたします。ご理解とご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



氏名 及川 龍彦
氏名ふりがな おいかわ たつひこ
都道府県士会 岩手県
年齢 54
勤務先名称 岩手リハビリテーション学院

日本理学療法協会活動歴

[平成17年～] 東北ブロック協議会理事
[平成28年～] 日本理学療法士協会代議員
[令和5年～] 東北ブロック協議会副会長

都道府県理学療法士（協）会活動歴

[平成17年～] 岩手県理学療法士会理事
[令和元年～] 岩手県理学療法士会会長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

日本理学療法士協会の代議員総会は実施事業をはじめとする多く事柄に関して、その方針を決定する意志決定機関としての重要な役割を持っています。そして、その意志決定は各都道府県の実状を考慮し、かつ理学療法士業界における効果的な事業へと発展することに寄与しますが、こと岩手県においては広大な県土と会員所属地域の偏りという特性を有していることから、協会が進める事業の中で本県が取り残されないよう常に現状を訴えてゆく必要があります。私は平成28年の代議員就任以降、日本理学療法士協会役員の方々と意見交換をさせて頂き、一方、本会における現職の立場から多くの会員の皆さんより意見を頂き、これを中央につなげて来ました。前段に挙げた本県の特性を協会に訴えることは他県とは違った視点にたつて協会事業の推進に寄与していると考えていますし、本会会員の皆さんへは普段の業務や生活向上につながるよう努力しているところです。昨年来、完全とは言えずとも日常は少しずつコロナ禍前に戻っています。次年度はこれまで以上に会員の皆さんから御意見を頂く機会を増やし、会員の皆さんが過ごす日常の姿や考えを協会につなげて行きたいと考えています。現在、会員の皆さんはご自身の処遇や給与面と言った「今」だけではなく、未来を見据えた「将来」やご自身を取り囲む「周囲」との関係にも不安や課題を抱えている方が多くいらっしゃると思います。私は代議員総会のみならず、日常的な協会役員との関わりを通じ、現状を伝え、ともに努力しながらこれらを解消してゆきたいと考えています。岩手県に在籍する会員の皆さんの未来が明るいものとなるよう、協力すべきは協力し、意見が必要な時には意見するといった姿勢のもと、会員の皆さんの代表として活動したく、日本理学療法士協会代議員へ立候補いたします。



氏名 関 公輔

氏名ふりがな せき こうすけ

都道府県士会 岩手県

年齢 49

勤務先名称 いわてリハビリテーションセンター

日本理学療法協会活動歴

平成15～令和2年度	東北ブロック協議会	学術局	機関誌編集部員
平成25～28年度	東北ブロック協議会	学術局	機関誌編集部長・副部長
平成29～30年度	東北ブロック協議会	学術局	副学術局長
令和3年～7年度	東北ブロック協議会	学術局	学術局長・学術大会副部長

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成16年～24年度（社）岩手県理学療法士会	学術局専門領域研究部会代表
平成27年～令和7年度（一社）岩手県理学療法士会	学術活動関連・推進担当理事
令和7年～8年度（一社）岩手県理学療法士会	理事兼組織強化部長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

令和元年～令和7年度（一社）日本運動器理学療法学会	選挙管理委員
令和3年度第19回日本神経理学療法学会学術大会	運営委員
令和5年～令和7年度（一社）日本神経理学療法学会	地方ブロック委員会いわて代表
令和7年（一社）日本神経理学療法学会	サテライトカンファレンスいわて 集会長

立候補の趣旨

理学療法士の社会的立場として、需要とニーズは増え職域の拡大は目覚ましい。これらを踏まえ、今、求められる理学療法士を支え、発展するために、以下に取り組む内容を掲げる。①自施設での理学療法士技能の発揮、②標準的理学療法の提供と治療効果の向上、③要配慮者を含めた多様化する疾病への包括的な理学療法の提供体制の構築、④病期間連携・施設間・地域内での顔の見える関係をより強化し、⑤すべての領域でのマネジメント能力の発揮、⑥職域範囲拡大に伴うニーズへの対応とシーズに係わる多団体の連携、⑦人口減少に適應した理学療法のあり方の模索を掲げたい。以上のことから組織内・外での強化をさらに加速していく必要がある。また個別課題として捉えず、包括した課題とし、さらなる進展に向かうよう活動していきたい。また直近の課題として、入会率低下・退会率の抑制に関する課題を把握し、理学療法士団体としての強化を図りたい。最後に組織として総合能力を高めるため、生き生きとした理学療法士が地域で活躍し、魅力ある理学療法士の活躍の場を設け、人材育成やそのあり方を多方向と協同し、日本理学療法士協会と地域を橋渡しができるよう尽力したい。



氏名 三浦 正徳
氏名ふりがな みうら まさのり
都道府県士会 岩手県
年齢 50
勤務先名称 帰厚堂南昌病院

日本理学療法協会活動歴

2023年9月～2024年2月
日本理学療法士協会新組織体制検討委員会（諮問委員会）委員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2010年～ 岩手県理学療法士会学術局研修部部長
2013年～ 岩手県理学療法士会学術局専門領域研究部神経系専門領域代表 他
2019年6月～ 一般社団法人岩手県理学療法士会理事
2025年6月～ 一般社団法人岩手県理学療法士会常務理事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

この度、日本理学療法士協会代議員選挙に立候補をした三浦正徳です。私は専門職としての理学療法士という仕事に誇りを持っています。そして、理学療法士がその専門性を損なうことなく、むしろ専門職としての自律性を発展させ、先々まで安心して働くことが出来る環境が整うことを願っています。その上で、そこに立ち社会を眺めてみると、人口減少と人口構造の変化、多様化する社会と個々人の意識、地方と中央の環境の違いや格差、公的制度における専門職としての位置づけ、数多ある専門職の中での存在感など、現在、私たちを取り巻く状況は必ずしも良いものとは言い切れないと感じています。

私はこれまで、県士会における学術活動の推進や組織体制整備に関わらせて頂き、それぞれで貴重な経験を得て参りました。現在は事業調整担当として、事業と人をつなぎ領域や世代を越えた協働を創出する役割を頂き、会員の皆様の活躍機会を生み出すこと、個々のつながりを強化すること、ひいては組織力の強化に資することを念頭に取り組みを進めています。また、日本理学療法士協会の新組織体制検討の諮問委員会に関わらせて頂いた経験は、協会運営に携わってきた経験豊富な委員の皆様との意見交換を通じて、一個人としての課題認識レベルから、職能団体の組織体としてどのような姿になるべきかを考える視点を与えて頂きました。

代議員として、これまでの経験とつながりを活かし、広い県土の岩手ならではの大切にしつつ、現場の肌感、地方の実状、会員の声を協会に届け、また情報を岩手に持ち帰り、具体的な活動に落とし込むべく尽力して参りますので、皆様のご支援の程どうぞよろしくお願い申し上げます。